

京都教区時報

京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

4頁～5頁 こんにちは神父さん

(ユン サンホ神父/小川 靖志神父/辻家 直樹神父/ブリー ヤン神父)

5頁～6頁 2018年 教区行事あれこれ

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
ご希望の方は点訳ネット「レジナ」代表嶺崎(たけざき)裕子さんまでお申込みください。

TEL・FAX 079-431-8601

2018年 司教年頭書簡「エコロジカルな回心」

回勅『ラウダート・シ』の呼びかけ

見よ。わたしは世の終わりまで、

いつもあなたがたと共にいる。

(マタイ28・20)

今年の最後に「三位一体的、秘跡的、神祕体的一致」について考えてみたいと思います。

これは、今年のテーマの「締め括り」でもあります。「教会憲章」の教会論からヒントを得て、環境問題に当てはめていきます。そこでまず、第二バチカン公会議の四つの憲章の中で、教会憲章のしめる位置について確認しておきたいと思います。私は四つの中で、教会憲章が中心になると思います。教会とは何かを神の啓示によって知る「啓示憲章」、内部的刷新を「典礼刷新」を手がかりに、外部的刷新を「現代世界憲章」をもってはかろうとしました。ところで、「第一回ナイス」と「京都教区ビジョン」は、この路線に立っていました。即ち「世界に開かれた教会」(ナイス)「社会と共に歩む教会」(教区ビジョン)。ちなみに今私たちは「世界」や「社会」の概念を、人間界に限定せずに「自然」にまで広げて



いるというのが「エコロジー(環境問題)の霊性」が目指すものと思われます。

今年は、教皇の「ラウダート・シ」と大塚司教の「年頭書簡」を神のみことばに基づいて理解し、現代社会における私たちの霊的刷新を勧めています。

ではテーマについて少し語ってみたいと思います。副題は「三位一体、秘跡的、神祕体的一致」とありますが、これは大きなテーマであることに気がきます。こんなテーマが生まれたのは「環境問題と教会」というテーマを、どうしても見落とすべきではないと考えたからです。

そこで「教会憲章」から読み取ってみようと思います。

「世界を組み入れた総合的

12
2018

な教会」という意味では「神秘的的一致」で取り扱えるかもしれない。でも、みなさんがご存知のように、これだけでは、厳然とそびえる堅固たる山のような不動産というイメージがぬぐい切れません。かつての教会論は、「不動なる勝利の王国」というイメージが強く「奉仕する教会」より、上に立って教え導く、君臨する教会を求めています。もし神秘的一致を強調するなら、コリント(一)12～14章が、思い浮かぶでしょう。そこには「君臨する教会」のイメージは皆無であり、「神秘的」というのは「秘跡的」であり、従来「見えない神の恵みの見えるしるし」と定義されました。それはそれで正しいと思います。「教会は恵みを伝えるしるし」なのですから、その概念を更に深めて「出会いの秘跡としての教会」という考え方が生まれしました。この出会いは、「自然との出会い」も含まれます。こ

れによって、私たちは、自然を畏敬の念をもって謙虚に考え、生きることが出来ることになります。

「三位一体的」というのは、父と子と聖霊の「内的な交わり」が私たち人類との「外的な交わり」となるのですが、それは創造から再臨に至る、神との歴史を通して啓示されていく、神との出会い(啓示)を通して行われる交わりであると気付かれます。その極みは、神を「アッバ」と呼べるに至ります。この言葉の背景には、このような「救い」と「啓示」の歴史観があるのです。それは、キリストを中心に行われます。ヘブライ人への手紙の書き出しは、こうです。「神は、かつて預言者たちによって……先祖に語られたが、この終わりの時代に、御子によって私たちに語られました」。コロサイ書なら(1・15～20)「御子は、見えない神の姿であり……すべての者は御子を通じて語らせ……造り……神はみこころのままに、満ちあふれるものを余すところなく御子の内に宿らせ……万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。」とあります。あとは、例えばヨハネ福音書は、みことばとなられた神との出会いを美しく語りかけています。更に、数ある聖書の箇所の中で、私は「ロマ書8章」を特に読んでみたいと思います。神の愛を知るのは、神と人に優しくあたたかい交わりを生み出します。そして、「ヨハネの手紙(一)」を読むとよいと思います。このヨハネの手紙の序文は、心を打たれます。神の言葉といのち、交わり、そして私たちが神の愛へと引き込むのです。

環境問題について考える時、私が忘れたくないのは、神の愛のまなざしです。このまなざしをもって、すべての被造物を見つめれば、世界は変わってくるでしょう。

「わたしは世の終わりに、いつもあなたがたと共にいる。」

この「あなたがたと共にいる(インマヌエル)」は、マタイ福音書のテーマです。神のみことばを閉じる黙示録では、すぐに来て下さる方は(3・11、22・12) いつも私たちと共にいて下さる方でもある(マタイ28・20)と語ります。だから「主よ来てください(マラナタ)。(コリント(一)16・22、黙22・20)といつも祈ることが出来るのです。この神への賛美に、人間のみに留まらず、全被造物も加わります(ロマ8章)。その時「新しい天と地」が開かれます(黙21章)そして、その日(万物完成の日)は、あの大合唱(第九)となつて高らかに歌う「終わりの日」となることを夢見ているのです。

ここでは非読んでいたいただきたい本があります。それは「世界がもし100人の村だったら」「日本がもし100人の村



だったら」(マガジンハウス)です。また、「世界でいちばん貧しい大統領からきみへ」(汐文社)です。

最後に、今年の結びを書かせて頂きます。環境問題に取り組んだ方々が、ゆとりとユーモアをもって取り組んでくださればと願ってのこと。

幸いである

あい(愛) といつくしみが
すべてにみなぎ

りく(陸) を覆い(大地と
の出会い)

が(我) にとらわれるこ
となく(自我を
克服し)

とも(友) と呼ぶ貧しい
人々を隣人とし
て(貧しい人を
友として)

うけ(受) 入れる人は神と
出会うのだと知
る時(神との出
会い)

神の家(国)は、そこに輝いている

子供たちの願い

「私たちに美しい未来と大地を
残しておいてください」

さあ、残せるかな……。

(村上透磨)

もうすぐ青年センター 30周年です！

10月26日(土)「ロザリオの夜」という集いを、西院教会をお借りして行いました。

1 連ずつ意向を唱えながら、みんなで祈りました。

実はこの集いは、青年センターが発信して、「あっちこっち企画」として、新潟教区、東京教区、大阪教区、長崎教区、そして、「カトラジ」という青年向けのラジオ放送でも同じ意向でロザリオの夜を行いました。遠く離れていても、同じ思いで祈っているのだという、嬉しい気持ちで集いを終えることができました。

さて、青年センターは2019年に30周年を迎えます。本当にありがとうございます。30周年を記念して、みんなで集まって、これまでの青年センターの活動を振り返ったり、これからの青年センターを

考えたりする企画を予定しています。この30年間のどこかの期間や、その前身から青年センターにちょっとでも関わっていたよ！ という方、何かの企画に参加していたよ！ という方、今現在関わ

っているよ！ という方、青年センターって何？ と思った方、などなど、たくさんの方と交流したいと思っています。

2019年1月26日(土) 昼すぎ頃～開始の予定です。詳しくは各小教区にポスターを配布させていただいたり、HPに詳細を載せたりする予定をしております。

ぜひお誘いあわせのうえ、お越しください。



【青年センターHP】 携帯からでもご覧いただけます。 <http://www.kyoto.catholic.jp/seinen/>

青年センターあんでな

こんにちは神父さん

尹 相鎬(ユン・サンホ) 神父



所属 クラレチアン
宣教修道会
生年 1957年
叙階 2008年

京都教区の皆さん、教区時報を通して挨拶を致します。皆さんの家庭の上に神様の恵みを祈ります。今年4月6日付けで、洛東ブロッコに協力司祭として派遣されたクラレチアンの尹神父です。韓国ソウルから参りました。日本で哲学を勉強して韓国で神学を学び、大阪玉造のカテドラルで叙階されました。日本では、東京修道院で神学生養成協力司祭として7年間、大阪教区でCブロック(今市、門真、大東教会)を担当しました。京都教区はクラレチアン会としても私個人としても初めての司牧です。たくさん足りない事があると思いますが、神様の恵みと皆さんの協力と支援に添えて頑張っていきたいと思ひます。どうぞ宜しくお願い致します。

小川 靖志 神父



所属 鹿児島教区
(心のともしび運動 YBU本部)
生年 1944年
叙階 1972年

わたしは、満州生まれの幼児洗礼です。メリノール修道会の神父、シスター方にお世話になりました。幼少時から、引き揚げ、転居などで、生活する場所が転々と変わりました。最後は、大浦天主堂がある長崎に落ち着きました。そこで幼児洗礼でしたが、カトリック教会を知ったというわけです。当時は、皆が貧しい生活を強いられていたと思うのですが、しかし、自分の家族以外は、みなさん裕福に見えました。でも、うらやましいとか、不幸だとは思っていませんでした。毎朝、山口司教様の侍者をするのが楽しみだったのです。小学校二年生からそれは始まり、毎朝5時起床でした。こうして、司祭召命への道が準備されていたのかな

と思います。わたし本人は、その時は何も気づいていませんでした。あとで思い出すに、両親、家族の協力があったの「召命」への道だったと思います。

司祭召命だけではなく、子どもへの育ちには家族、周りの方の助けがどうしても要ります。バランスのとれた「人となり」を会得するために、日頃の人の交わりがいかに大事なことか。特別なことをするのではなく、普通に生活していくことでしよう。今日もまた、いつもの仲間が、仕事が待っています。

辻家 直樹 神父



所属 サレジオ
修道会
生年 1971年
叙階 2002年

こんにちは。サレジオ会の辻家です。京都教区でお世話になるのは今回で2回目です。叙階されて間もない2003年度の1年間、三重県の四日市サレジオ志願院に副院長として派遣された時に一度お世話になりました。あれから15年たって再び同じ場所に派遣されることになりました。またお世話になります。よろ

しくお願いいたします。私は、この京都教区に再び置かれていただいたいのことを「原点に返れ」という呼びかけとして受け取っています。というのは、叙階一年目の時の京都教区での体験は、私にとって司祭として歩み始めた原点だからです。15年前のことを思い出すと、暖かい記憶がよみがえってきます。初めて洗礼を授けた方の輝いていた顔、聖週間の典礼や黙想会に呼んでいただき、つたない私の話を一生懸命に聞いてくださった信者さん方の暖かいまなざし……。

あれから15年が経ちました。戻って来て、変わらないうでほっとしたところがあります。京都教区のだの教会に行っても感じる暖かさです。今も変わっていません。しかし同時に確実に変わってきたな、と思う部分もあります。それは青少年の層です。東京にいた時にはあまり感じる事のなかった、減少という現実を目の当たりにします。しかし、それだけではありません。光も感じます。外国籍の子どもたちがたくさん教会に来ていて、とても生き生き

としている、そんな様子です。また、粘り強く子どもを大切に、地道に活動をしている教会には子どもたちが増えていくという現象です。

私はまた原点に立ち返り、神様の旨、神様の思いに耳を傾けながら、喜びを持って歩んでいけたらと思います。四日市のサレジオ会志願生たちとの歩みの中で、よろしくお願いいたします。

ブリーヤン(ヨハネ)神父



諸族(所属) サレジオ
聖年(生年) 1950年 修道会
叙階 1981年

「御降誕祭」お慶びをもうしあげます！

Wesolych Swiat Bozego Narodzenia (ポーランド語で) 喜びの御降誕祭を！と言の意味です。そして、もっとも古い、しかも有名なクリスマスソングは「Boogie woogie, moc truchleje」。すなわち、神様が誕生しているから、闇の力が恐れおのいている。

私は Bury Jan (ブリーヤン) 神父(=ヨハネ神父)

で寅年生まれです。24歳の時に日本に来ました。

クリスマスカードにママは、いつも心配そうに書いて来ました。「息子よ、来年は神父になれるか？」

またラクダイするか……と。やっと31歳のクリスマスカードに「お母ちゃん、来年、僕は神父かも……」互いの、ありがたいクリスマスプレゼントでした。

1981年2月25日(ヨハネ・パウロ二世来日)の司祭叙階式で、あなたの客は何名ですかと聞かれたとき、3名ですと答えました。

1. Papa ヨハネ・パウロ二世、2. Krakovia の枢機卿 Macharski、3. 僕の地方の大司教 Herbert。ママは「何回もラクダイして良かったね。」と嬉しそうにお祝いの言葉を言ってくれました。

「虎視牛歩」は、私の人生の宿題として受けとめている言葉です。

虎視(こし)

牛歩(ぎゅうぽ) 虎のようにするどく眺め 牛歩(ぎゅうぽ) 牛のように忍耐強く歩む



4月8日 京都教区 新信者のミサと集い



3月26日～28日 京都教区 小学生侍者合宿



4月21日 インマヌエル福岡一穂神父・洗礼者ヨハネ森田直樹神父
司祭叙階二十五周年 銀祝感謝ミサ



3月28日 京都教区 聖香油ミサ

2018年 教区行事 あれこれ

時報6月号
掲載

時報6月号
掲載

時報11月号
掲載



8月25日 京都教区 教会学校研修会



8月4日 比叡山宗教サミット「世界平和祈りの集い」

時報12月号
掲載



9月22日～23日 ネットワークミーティング in 京都



8月4日～5日 京都教区 第11回 戦争と平和写真展

時報12月号
掲載



10月6日～7日 京都教区 青年のための黙想会

時報10月号
掲載



8月5日～7日 京都教区中学生広島平和巡礼



11月17日 京都教区「いのち・平和・環境の日」の集い

時報11月号
掲載



8月9日～16日 コリアン ユース デイ (Korea Youth Day)

第35回 ネットワークミーティング in 京都

2018年9月22日～23日にかけて、京都教区内宮津市にて、第35回ネットワークミーティング in 京都(以下NWM)が行われました。NWMとは、カトリックの青年、青年の活動を支えている信徒・修道者・司祭が自由に集い、そこで今かかえている問題や信仰のこと等を分かち合い、交流する場として開催されている集いです。いろいろな地域の青年や活動している青年と出会い、情報交換の場として、年2回、教区持ち回りで開催されています。

NWMには後援としてカトリック青年連絡協議会がついています。カトリック青年連絡協議会とは、情報交換と交流を通じ、教区を超えてカトリック青年の活動を支援し促進することを目的とした集まりです。年2回開催される運営委員会では、全国の青年担当が集まり、日本各地で、青年のつながりが実現するためにできることを話し合っています。

また、青年・司祭・修道者とのネットワークを生かし、全国各地の青年活動情

報を入手できます。そして、NWMには「全国の青年達とつながり、話がしたい!」など様々な思いの青年が集まっています。そんな青年達の声に耳を傾け、後援し、つながりをサポートしているのが青年連絡協議会です。詳しくは、カトリック青年連絡協議会ホームページをご覧ください。 <http://catholicyouth.jp>

NWMに向けて、京都教区中から青年が集い、スタッフとして何度も話し合いを重ねてきました。みんな考えたテーマは「むすんで ひらいて」です。「どんなNWMにしたいのか?」その問いを突き詰めていくと、「神様の導きによって皆が集い、人と人が交わり、様々な気づきを得て、そこからまた派遣されていく」……NWMとは、そういう場所であると考えたからです。そこで思い浮かんだのが、童謡でなじみがある「むすんで ひらいて」という言葉。『むすぶ』には「つながる」「交わりを密にする」「互いに約束する」「実る」という意味が、『ひらく』には「始まる」「広げる」「開拓する」「よい方へ向くように努める」という意味が含まれています。参加した皆が「むすんで ひらいて」いく、そんな思いがこもったNWMでした。

今回はNWMに初めて参加した京都教区の青年の感想と、一部のメンバーでは

ありますが、スタッフの青年たちの感想を載せ、NWMの報告とさせていただきます。

NWMに参加して

唐崎教会 堀内 伸

私は今回NWMに初参加したが、参加して良かった点をいくつか挙げたい。

まず、多くの人と出会えたことである。全国にこんなにも多くの青年がいるということを初めて知ったが、みんな温かく、多くの人と仲良くなることが出来た。特に活動の際に割り振られた班は教区だけでなく、年齢や通っている大学の系統や職種も全く異なるメンバーで構成されており、班のメンバーと話すことはとても楽しく、また勉強になった。班



以外でも多くの人と関わることもできた。一度にこんなにも多くの初対面の人と深く話すことが出来たのは、初めてであったので新鮮で楽しかったし、世界が広がったよう



に感じた。普段は、自分から声をかけに行きようなことはあまりないが、相手が信仰を共にしているというだけで、コミュニケーションのハードルが大きく下がったように感じ、信仰の偉大さも実感した。また京都教区内でも久しく会ってなかった友人たちや、私が中学生の頃のリーダーたちなど、懐かしい出会いがたくさんあった。距離、時間の両方において、繋がりを感

じることが出来た2日間だったと思う。

次に、自分を見つめなおすことが出来たことである。普段、自分のことや神様の存在について、改めて考えることはあまりないので、今回宮津の海を眺めながら、それらについて深く考えられたし、悩みながらも自分の中で考えを少しはまとめるこ

とが出来て良かった。その後の分かち合いでは、班のメンバーで、自分と同じような悩みや考えをもっている人がいて驚くとともに、そのような同じ感性を持った人の考えを聞くことで、どれだけ一人で考えてもわからない、しこりのようなものが少しほぐれたように感じ、感動した。共感できることや、逆に自分の中になかった考えなど、多くの意見を聞いて刺激になった。

今回のNWMに参加してのテーマの“むすんで ひらいて”は初めは意味が分からなかったが、プログラムを通じ、多くの人とむすばれて、また自分自身の考えもむすぶことが出来て、NWMの終わるころには、その意味を痛いほど実感した。充実した2日間を送れたことに感謝して、むすんだことをひらけるような日々を送っていききたい。

宮津教会 関野 祐

参加したきっかけは母親が教会でNWMのチラシをもらってきたこと。地元の宮津市に、全国からカトリックの青年が集まる機会なんてそうないし、青年たちと交流をすることで、今後、生きていくうえでの糧になるのではないかという想いでした。

2日間のプログラムでグループごとに

メンバーそれぞれがお互いを知り、交流を深めていくなかで、自分というものを改めて見つめなおす貴重な時間になりました。自分と同世代の人たちが、どんなことを考えて日々を送り、教会と関わっているのか。様々な方と意見交換ができたのは良い経験になりました。

教会からはずっと離れていましたが、最近になって改めて地元の宮津教会の宣教の歴史を知り、その尊さを感じたことがきっかけで、教会に対して関心をもつようになりました。しかし、ミサに参加しても聖書や説教も理解できず、神様とは何か、自分にとって教会とは、信仰とは、どういうものなのかということはずっと考えていました。でも、それらは頭で考えるのではなく、心で感じるものだということを今回知りました。

今後も自問自答して生きていくことに変わりはないと思いますが、宮津教会、この地域のことを一人でも多くの人に伝えていき、多くの人に共感される場所になるように、自分のできることを最大限やっていきます。

河原町教会 平野 慶和

1日目の夕方からのプログラムでは、普段見ないふりをしてしまいがちな自分と向き合い、ワークシートや分かち合い

を通して「自分との結び」というものについて考えました。性格の内側に一步踏み込むような内容ではあったので、スタッフ同士で実際に何度も行なってみて、気になる点は納得がいくまで話し合いました。

参加者の皆さんには、NWMでたくさんの人と交わり、その中で見つけたお互いのいいところを伝え合うことで、改めて自分を見つめ直すことの大切さを感じてもらえたかと思います。相手にいいところを伝えるのは少し照れくさいですが、言葉にして伝えることは大切なことです。言葉をもらった人がその言葉を通して自分と出会う。その連鎖で少しずつ、自分と「むすんで」周りに「ひらいて」の輪が広がってほしいと思っています。

伊勢教会 濱口 聡子

2日目のプログラムでは、神さまとじぶんとのつながりを見つめ直し、日常生活においてじぶんを「ひらいて」いくことについて考えました。

神さまと向き合うためにおこなったのは、黙想。カトリック教会において大事にしているものでありながら、あまりしたことがない青年が多かったため、このプログラムを通して経験できたことが、



もあります。

分かち合いでは、イエスさまからの呼びかけがどんなものであるか、また、どのように答えていきたいか、一人ひとりがじぶんのおもいを語りました。難しい問いかけに頭を抱える姿も見られましたが、少しの不安と希望を分かち合うことができました。

西舞鶴教会 岡山 仁美

3回目のNWMスタッフでしたが、今までで一番「伝えたい」気持ち強いNWMとなりました。参加者のみなさんへ、一緒にスタッフとして頑張る仲間たちへ、そして神様へ。自己満足かもしれないですが、それが誰かに伝わっているといいなと思っています。大切な時間をあ

青年たちにとって、実りあるものになりました。また、自然豊かな宮津の環境が活かされ、海辺で波音を聞きながら心を落ち着かせる青年の姿が多く見られ、より良い経験ができたとお

りがとうございました。

衣笠教会 山田将太郎

私は今回、みんなが頑張って作り上げてくれたNWMの仲間に入れて頂いたという感じが強いですが、それでも、みんなが一生懸命取り組み、力を注いでいるNWMをそばで感じられ、またスタッフとして役割を頂き、参加でき、何より参加者が心から喜んでくれている姿をみて、とても感動しました。改めて、このようなカトリックの青年の全国規模でのイベントの大切さを感じました。ありがとうございました。

西舞鶴教会 小林 真衣

今回NWMにスタッフとして参加して、参加者との繋がりはもちろん、スタッフ同士の繋がりがりも深めることができました。神様によって、集められたこのメンバーで「参加者の皆さんにとって実のあるNWMに」と、考え続けられたことを嬉しく思います。

河原町教会 栗山 透

京都でのNWMでまたスタッフをやらせてもらいました。テーマ「むすんでひらいて」のもと、全国の青年が集い、普段の生活や青年活動から個々の経

験、信仰までを分かち合える場になったと思います。ありがとうございます！

河原町教会 奥埜のぞみ

「むすんで ひらいて」というテーマでつないだ2日間。時間を追うごとに、みなさんの考えが深まっていったなら幸いです。全国の仲間、そして素晴らしい京都教区の仲間を結んでくださった神様に感謝です。これから、ひらいていけたらと思います。ありがとうございます。

スタッフ一同

NWの開催にあたり、教区のみなさまにお祈りいただいたこと、本当に感謝申し上げます。また、行ける範囲ではありましたが、京都教区内の小教区に訪問させていただき、NWの話をした際に、あたたかく迎えてくださった皆様、ありがとうございます。

今後とも、私たち青年のために祈りとご支援、よろしく願います。また、教区の青少年委員会のひとつである「カトリック青年センター」では、月に一回程度、集まりをおこなっており、す。植物園で聖書に出てくる植物をさがしたり、ロザリオの集いをおこなったりしております。青年のみなさん、ぜひ、青年センターの集まりにきていただき、

「むすんで ひらいて」しませんか？ また、お近くの青年へのお声かけもよろしくお願いいたします。

NWでお世話になった皆様、すばらしい場を準備して導いてくださった神様、ありがとうございます。

青年のための黙想会

教区の信仰教育委員会主催、「青年のための黙想会」が10月6日〜7日、チェソソファン師の指導で、望洋庵において行われ、京都教区内外から7名の青年たちと、巡礼にいられたイエスのカリタス修道女会のシスター3名が参加しました。テーマは「ロザリオの祈り」で、「喜びの神秘」を2日間ゆっくり、深く黙想しました。

最初に神父様の講話があり、ロザリオの祈りはイエスの生涯をマリアとともに黙想することだということを確認しました。そして神に「はい」とおっしゃったマリア、神の母となられたマリア、イエスの仕事の協力者であるマリア、神（イエス）のみこころにいちばん従ったマリア、十字架の横に立ってイエスと苦しみをとともにされたマリア、教会の母であ

り、私たちの母であるマリアを思い起こしました。

「喜びの神秘」の黙想は、第一の黙想から第五の黙想まで、それぞれの場面の聖書の箇所を味わいながら2回ずつ読み、長い黙想と祈りの時間を持ちました。一つずつの黙想の終わりに、祈ったこと、黙想したことを紙に書いて深めました。最後に、マリアへ贈る文を書いて、締めくくりに全員でロザリオ一環をお捧げしました。

わたしたちは、ロザリオの祈りによって、母であり、信仰の模範であるマリアと親しくなること、それは、マリアといっしょにイエスのところへ行くことであり、神である御父のもとへ進むことであることを学ぶことができました。



ロザリオの月

である10月に、「ロザリオ」を黙想し祈ったことはとても意義深く、聖母マリアの取次ぎによって祈ることの意味を深く考えた2日間でした。

信仰教育委員会



皆様、おめでとうございます

喜べ！



イエス様がお生まれになりました！！

光は今日私たちの上に輝き、救い主が生まれた。その名は、偉大な神、平和の君、とこしえの父と呼ばれ、その国は終わることがない。(イザヤ9・1、5 ルカ1・33 参照)

主の降誕おめでとうございます

最初の弟子たちは、イエスの誕生を知りませんでした。人びとが、イエスの誕生の出来事の意味と、そのすばらしさに気づいてクリスマスを祝い始めるのは、ずっと後になってからのことです。そのためには、死んで復活されたイエスに出会い、この方こそ本当に救い主であるということに気づく必要がありました。こうして、あるとき(イエスの誕生のとき)、自分たちは気づかなかったけれども、すでに神が救いの計画を実現し始めておられたのだということを、人びとは理解したのです。

そこで、私たちの日々の生活を振り返ってみましょう。私たちは、日常の中で働かれる神の業を、なかなか感じ取ることができません。キリストによって救われたと言いますが、この救いを実感することも簡単なことではありません。どうやら、神の業はそのときはほとんど気づくことなく、後になって振り返ってみて、「あるとき、確かに神が私を支えてくれた。私の中で救いの業を実現してくれた」と理解する場合がほとんどのようなです。神は、救い主イエスの誕生のときにそうなさったように、隠れた方法で働かれるからです。

クリスマスを祝うということは、私たちが、そのときは気づかずに過ぎてしまった、救い主の誕生という神の偉大な業を思い巡らし、神に賛美と感謝を捧げることです。しかも、神は今も私たちの中で働かれていますから、この機会にちょっと立ち止まって(願わくは、この機会だけでなく毎日少しずつ)自分自身の歩みを振り返り、思い巡らしてみよう。

大塚司教の

12月のスケジュール

Schedule of Bishop Otsuka



- 1日⊕ 16:00 教区カトリック学校
交流フォーラム(河原町教会)
- 2日⊕ 13:00 四日市教会ミサ 英語ミサ
- 3日⊕ 10:30 京都司教区司教座聖堂
献堂記念日ミサ
- 4日⊕ 18:00 教区評議会 書記局会議
- 5日⊕ 15:00 中央協 財務委員会
- 6日⊕ 10:00 中央協 常任司教委員会
18:00 日本カトリック神学院・
常任司教委員会(福岡キャンパス)
- 7日⊕ 9:00 日本カトリック神学院・
常任司教委員会(福岡キャンパス)

- 8日⊕ 13:30 第19回 教区宣教司牧評議会
- 9日⊕ 14:00 草津教会 英語ミサ
- 10日⊕ 13:30 四日市メリノール学院 理事会
- 11日⊕ 15:00 カトリック大阪教会管区
部落差別人権活動センター
担当司祭会議(京都司教館)
- 12日⊕-13日⊕ 特別臨時 司教総会
- 14日⊕ 司教社会問題研修会
- 16日⊕ 11:00 名張教会ミサ
18:00 望洋庵 クリスマス会
- 17日⊕ 15:00 司教顧問会
- 19日⊕ 11:00 中央協 列聖推進委員会
- 24日⊕ 21:00 主の降誕深夜ミサ
(河原町教会)
- 25日⊕ 10:30 主の降誕ミサ(河原町教会)

12月のお知らせ

教 区

聖書委員会／Tel.075(211)3484 ⊕⊕
聖書講座「回心 ―観想・祈り・詩うー」
感謝と派遣のミサ
日 時：6日⊕ 10:30
テーマ：終末を祝う「見よ、私は全てを新しくする」
(新しい天と地)

よく分かる聖書の学び／Tel.075(211)3025
日 時：12日⊕ 10:30
講 師：北村 善朗師／参加費：300円
会 場：河原町教会 ヴィリオンホール

小 教 区

河原町教会
西日本豪雨被災地支援
クリスマスチャリティーコンサート
日 時：16日⊕ 15:00
内 容：京都聖マリア教会ハンドベルクワイヤ
ノートルダム学院小学校合唱部
河原町教会オルガニストの共演
河原町教会聖歌隊

クリスマス市民の集い
日 時：24日⊕ 18:30
内 容：コンサート 祈り(み言葉の祭儀)
キャロル合唱

主の降誕ミサ
日 時：24日⊕ 21:00
25日⊕ 7:00/10:30/12:00(英語)

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：2日⊕ 14:00/9日⊕ 14:00
カトリック会館 6階

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：13日⊕ 10:00 カトリック会館 6階

聴覚障がい者の会(どなたでも参加可)

手話ミサとクリスマス会

日 時：18日⊕ 11:00
会 場：「都の聖母」小聖堂・ヴィリオンホール
参加費：1,000円
申込要：Tel・Fax.075(723)1135 傳(つとう) 裕子

望洋庵／Tel.075(366)8337

青年のための聖書講座

日 時：6日⊕ 19:00～21:00
指 導：菅原 友明師・大塚 乾隆師
参加費：200円(食事代含)

キリスト教講座

日 時：11日⊕ 19:00～21:00
指 導：大塚 乾隆師
参加費：200円(食事代含)

心のともしび 番組案内

テレビ(衛星スカパー、ケーブル)スカイ A
毎週土曜日 朝 7:45

シリーズ「喜びと平和のうちに」

出演は松村 信也師(イエズス会)12/1で終了。

12/8から新シリーズSr.小野恭世(イエズス孝女会)

ラジオ(KBS京都) ⊕～⊕ 朝 5:55

⊕ 朝 5:15

12月のテーマ「クリスマスのメッセージ」

※ 2月号の原稿締切り日は12月12日⊕です。